

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：32643

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820055

研究課題名(和文) 中国前漢後半期から王莽期の貨幣経済史に関する研究

研究課題名(英文) A Research on Monetary History in Ancient China from the latter half of Western Han period to the Xin Period

研究代表者

柿沼 陽平 (KAKINUMA, Yohei)

帝京大学・文学部・講師

研究者番号：70633311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：申請者はこれまで、中国古代において貨幣(経済的流通手段)とそれを中心とする貨幣経済が具体的にいつどのように展開し、それが当時の社会にいかなる影響を与えたのか、また当時の人びとがそれにどう対処したのかについて検討してきた。本課題はその一環をなすもので、とくに前漢武帝～王莽期の貨幣経済史について検討した。

検討の結果、前漢後半期～王莽期の貨幣経済の動態は、従来一般に想定されているほどに激変を伴ったものではなく、むしろ継続的側面が濃厚であると考えに至った。またその反面、前漢貨幣経済は武帝期に大きく変化したようである。

研究成果の概要(英文)：It has been considered hitherto in my research how the monetary economy developed in ancient China, why multiple monies influenced to the ancient Chinese society, and how people attempted to control it. As a part of such a broad theme, I have proceeded a following study between 2012 and 2013.

In conclusion, the monetary economy between the latter half of the Western Han period and the Xin period did not change so much as is widely expected. Rather, it was a successive process, and we had better said that the monetary economy changed revolutionary after the emperor Wu period.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：貨幣 中国古代 前漢 王莽 銭 東洋史 黄金 贈与

## 1. 研究開始当初の背景

報告者はこれまで、中国古代において貨幣（経済的流通手段）とそれを中心とする貨幣経済が具体的にいつどのように展開し、それが当時の社会にいかなる影響を与えたのか、また当時の人びとがそれにどう対処したのかについて検討してきた。

たとえば報告者は、著書『中国古代貨幣経済史研究』（汲古書院、2011年）で前漢武帝以前、論文「後漢時代における貨幣経済の展開とその特質」（『史滴』第31号、2009年12月、64-101頁）、論文「晋代貨幣経済の構造とその特質」（『東方学』第120輯、2010年7月、18-33頁）、論文「三国時代の曹魏における税制改革と貨幣経済の質的变化」（『東洋学報』第92巻第3号、2010年12月、1-27頁）で後漢時代以後の貨幣経済について検討した。

ただし、以上の研究は、おおきくわけると、前漢前半期以前の経済に関する研究と、後漢以後の経済に関する研究にわけられ、ちょうどそのあいだに位置する前漢後半期～王莽期の経済に関する研究がなお欠落している。そこで本課題では、この問題をとりにあげることとした。

## 2. 研究の目的

そこで前漢後半期～王莽期の貨幣経済史に関する先行研究の有無を確認したところ、中国に若干の論文がある他、欧米にも楊聯陞氏やPatricia Ebrey氏による研究がある。ただしそれらは必ずしも系統的・体系的な研究ではなく、当該時代の貨幣経済のあり方を全体的に描出したものとはいいいがたい。一方、日本には、山田勝芳氏と紙屋正和氏による研究があり、前漢時代後半期と王莽時代の貨幣経済の存在と、その制度的背景が説明されている。それをふまえ、つぎの点に注意される。

(1) 先行研究は青銅貨幣に関する制度的説明としては積極的に継承すべき点が多いものの、当時の貨幣経済全体を明らかにする上ではまだ不十分な点もある。たとえば当時の貨幣経済は、銭のみならず、黄金や布帛をも貨幣とするものであった。しかもそれらは経済的流通手段という共通の機能を有するとともに、それぞれ別々の社会的機能をも有していた。たとえば誰かの葬式に参列する場合には銭や黄金でなく布帛を持参すべきとされていた。あるいは官吏の退職金は、銭や布帛でなく、黄金で支払われた。このように銭・黄金・布帛の間には、たんに「貨幣」という語では括りきれない機能的差異が存在したのである。

(2) 前漢末期～王莽期の貨幣経済史については、従来王莽が古代史上稀なる大規模な経済改革を実施し、失敗して滅亡していることから、山田勝芳氏をはじめ多くの研究者による分析がなされてきた

ものの、それらは概して『漢書』等の伝世文献に依拠したものであった。しかも伝世文献は量的・内容的に限定的で、その実態解明を行う上でときに隔靴搔痒の感があった。だが近年中国では当該時代の文字資料が続々と出土しており、それらはまさに先行研究の欠を補うものである。たとえば、いわゆる居延漢簡や敦煌漢簡などには当該時代の貨幣経済史に関する記載が散見し、当時の辺境地域における兵士の生活状況や貨幣経済の実態を解明する上で、ぜひとも参照すべきものである。

(3) 前漢後半期～王莽期の貨幣経済史を正確に理解するには、当然その前後の時代の貨幣経済史についても厳密に検討しておく必要がある。ところが、中国古代貨幣史の通時的研究としては従来、彭信威氏や山田勝芳氏の研究成果があるものの、彭信威氏の研究は刊行後30年以上を経過したもので古きに過ぎ、山田氏の通史的分析も一般書の中で展開されたもので、必ずしも検討の余地がないわけではない。これに対して拙著は、日本初の中国古代貨幣経済史に関する体系的な研究書で、前漢前半期以前の貨幣経済史に関しては詳細に論述しており、研究公開促進費にも採択された。その意味で、前漢後半期～王莽期の貨幣経済史を、その前後の時代を正確にふまえて研究するという作業は、報告者に最適の課題である。

以上三点をふまえ、新出土文字資料をふまえて、前漢後半期～王莽期の銭・黄金・布帛の具体的なフローに関する分析をすすめた。

## 3. 研究の方法

(1) 前漢後半期～王莽期の貨幣経済史を、学際的かつ実証的に検討した。その研究計画にとって前提となるのは、経済学・経済人類学・経済社会学の関連文献を渉猟して分析を加えることと、最新の出土文字資料を渉猟して分析を加えることだった。

(2) 以上の検討をふまえ、従来さんざん検討しつくされてきたかにも見える関連の伝世文献に対し、再度詳細な検討を加える。なかでも『漢書』食貨志は、前漢後半期～王莽期の経済史関連史料なので、逐条的な注釈を加え、研究基盤を整える。

(3) 前漢後半期～王莽期の貨幣経済史に関する『漢書』食貨志などの史料のうち、とくに銭・布帛・布帛の授受の事例に注目し、1つ1つの事例を分類し、誰から誰にいかなる理由に基づき何が渡されたのかを闡明し、その統計をとる。この手法はじつは、戦国秦漢貨幣経済に関する拙著などで採用し、各時代の貨幣経済

の特質を把握するのに非常に有用であった。それは当時の人びとがいかなる時に、どの貨幣を授受に用いるのか、それが全体的に貨幣経済に一体いかなる効果をもたらすのかを検討するためのものである。

- (4) 以上のごとく収集・分類した史料を用いて前漢後半期～王莽期の貨幣経済史の実相を解明するとともに、それが中国貨幣経済史上に有する時代的特質と、その意味を検討する。すでに秦漢時代以前と魏晉時代の経済史に関しては検討済なので、それらを念頭に置いた前漢後半期～王莽期の貨幣経済史に関する分析を行う。
- (5) 研究成果の中間報告を国内外でおこない、国際的な評価を仰ぐ。なぜならそれによって、結果的に中国古代史研究の世界的水準を向上させるとともに、日本の学界の存在意義をも国内外に周知させようからである。しかも既述のごとく、このような試みは、現行の世界経済史学界において中国古代貨幣経済史に対する考察は全般的に不足し、それ以外の地域とテーマを主軸にする研究が多い現状を相対化し、世界経済史研究を中国古代史の側から補完することに繋がる。これは、学術的・教育的意義を有するとともに、世界経済史の中での中国経済史の位置付けをしめすことを通じて、国際的な学术交流と歴史認識の対話を推進しようという社会的意義をも持つものと考えられる。

#### 4. 研究成果

以上の研究目的・研究方法にそって、2年間さまざまな点について検討した。

- (1) 現在までに得られた成果として、『漢書』食貨志訳注稿がある。これは前漢後半期～王莽期の経済史を知る上で、一番重要な伝世文献である。この史料に対して、近年の出土文字資料研究をふまえつつ、訳注をつけた。これが論文執筆の土台となった。ただし、まだ公開できるほど体裁が整ってはいない。今後数年以内に、諸点を整備し、刊行にこぎつけたい。
- (2) 前漢後半期～王莽期の経済史に関する直接的回答として、学会報告がある。これに関しては2014年度中にいずれかの学術雑誌に投稿予定である。さらに図書を刊行予定である。
- (3) 前漢後半期～王莽期の経済史をとりまく歴史背景・史料状況・先行研究について検討した( )。また関連先行研究書を熟読し、書評を公表した( )。さらに次の3論文は、科研費による直接的な成果ではないものの、いずれも本課題の歴史背景を理解するのに重要で、科研費の成果を補足するものでもある。御参照いただきたい。

栢沼陽平『『漢書』をめぐる読書行為と読書共同体 顔師古注以前を中心に』(『帝京史学』第29号、2014年2月、29-68頁)

栢沼陽平「从走馬樓吳簡看孫吳的中央集權化和軍制」(中国魏晉南北朝史学会・山西大学歴史文化学院編『中国魏晉南北朝史学会第十届年会暨国際學術研討会論文集』北岳文藝出版社、2012年8月、521-532頁)

栢沼陽平「蜀漢的軍事最優先型経済体系」(『史学月刊』2012年第9期、2012年9月、28-42頁)

栢沼陽平「孫吳貨幣経済的結構和特点」(『中国经济史研究』2013年第1期、2013年3月、23-43頁)

第四に、研究成果を国外でも報告し、議論をふかめた( )。とくに Bernholz, P. & Vaubel, R. eds. 2014. *Explaining Monetary and Financial Innovation: A Historical Analysis*. Springer は、本課題の研究成果とも関連するので、御参照いただきたい。

以上本課題の研究成果は多岐にわたるが、一般社会への還元性という点でいえば、一般書の刊行がもっとも大きな成果であるといえよう。また以上の諸業績のなかには、なお王莽期に関する成果が不足気味なのであるが、これに関する業績は、査読雑誌などへ投稿中のため、なお公開に至っていない。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 9件)

水間大輔・栢沼陽平・猪原達生・峰雪幸人「秦嶺山脈西部秦漢三国遺址視察記」(『史滴』第35号、2013年12月、126-156頁)

栢沼陽平「日本の中国出土簡帛研究論著目録(二)(1910-2011年)」(『簡帛研究二〇一二』広西師範大学出版社、2013年10月、223-314頁)

栢沼陽平「日本の中国出土簡帛研究論著目録(一)(1910-2011年)」(『簡帛研究二〇一一』広西師範大学出版社、2013年6月、232-257頁)

栢沼陽平「戦国趙武靈王の諸改革」(『日本秦漢史研究』第13号、2013年3月、58-85頁)

栢沼陽平「書評 江村治樹著『春秋戦国時代青銅貨幣の生成と展開』」(『日本秦漢史研究』第13号、2013年3月、130-140頁)

栢沼陽平『『漢書』をめぐる読書行為と読書共同体 顔師古注以後を中心に』(榎本淳一編『古代中国・日本における学術と支配』同成社、2013年2月、75-101頁)

水間大輔・栢沼陽平「内蒙古自治区中南部城址視察記 フフホト市・包頭市を中心に」(『史滴』第34号、2012年12月、187-215頁)

栢沼陽平「三国時期曹魏的税制改革和貨幣

経済質変」(『中国三国歴史文化国際学術討論  
会論文集』湖北人民出版社,2012年8  
月,194-209頁)

柿沼陽平「書評 渡邊信一郎著『中国古代  
の財政と国家』」(『史学雑誌』第121編第4  
号,2012年4月,80-88頁)

〔学会発表〕(計 5件)

柿沼陽平「後漢王朝滅亡の経済的遠因 対  
羌戦争と通貨膨張」第38回早稲田大学東  
洋史懇話会大会(2013年3月23日,於早稲田  
大学)

柿沼陽平「戦国秦漢時期的王権和非農」第  
二届中国秦漢史高層論壇(2012年11月4日,  
於江蘇師範大学)

柿沼陽平「中国南朝劉宋貨幣経済の結構及  
其特点」第六届中国中古史青年学者聯誼会  
(2012年8月26日,於復旦大学)

柿沼陽平 The Emergence and spreading of  
coins in China during the period of Warring  
States. The Political Economy of Monetary  
Innovation. 10th August.2012.(Hotel Der  
Europäische Hof, Heidelberg, GERMANY)

柿沼陽平 The Monetary Economy in Ancient  
China: A Multiple Currency Economy?. XVIth  
World Economic History Congress  
Association. 9th July.2012.  
(Stellenbosch, SOUTH AFRICA)

〔図書〕(計 1件)

柿沼陽平『中国古代貨幣の世界』(吉川弘  
文館、2014年)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

柿沼 陽平(KAKINUMA Yohei)

帝京大学文学部・専任講師

研究者番号:70633311

(2)研究分担者

( )

研究者番号:

(3)連携研究者

( )

研究者番号: